

指針第1号様式

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,548	t-CO ₂
①を （温室除く 二酸化炭素 換算） 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		3,548

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量	3,548	t-CO ₂	3,512	t-CO ₂	1.0

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	原単位当たりの 排出量		t-CO ₂		t-CO ₂	

(2) 目標設定の考え方

今後、生産量が停滞あるいは減少見込みの中で、更なる省資・省エネ活動の推進により、トータルエネルギー排出量の削減を図っていく。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
ISO14001 環境マネジメント プログラム の活用による 省資・省エネ	製造工程の見直し、改善、設備導入による歩留まり向上、省エネ化を図る。 ・各種電動機のインバータ化、 ・空調機の省エネ制御化 等	温室効果ガスの総排出量を今後3年間で1%削減する。
	ユーティリティー設備更新、使用条件の見直しによる省エネを推進。 ・スチームトラップの点検・健全化 等	
	設備・運転トラブルの削減による歩留まり向上、省エネ化を図る。 ・設備更新・改善によるロス削減 ・運転・設備トラブル教育の実施	
	改善提案活動による省資・省エネを推進。 ・設備改善による粉漏れ、油漏れの削減、原料ロスの削減	
	廃棄物の分別、適性処理による省資・省エネを推進。 ・廃棄→リサイクル化への推進 ・廃棄物分別教育の実施 ・廃棄物トラブル事例教育の実施	

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 定期的な環境教育の実施継続 (環境不適合事例等)・ 水・蒸気使用量の適正管理 |
|---|